

春日野地区防災福祉コミュニティ地域おたすけガイド

平成 29 年 3 月作成

**春日野地区防災福祉コミュニティ（神戸市）
（春日野ふれあいのまちづくり協議会防災部会）**

地域おたすけガイドの活用に当たって…

- (1) 地域おたすけガイドは、地域みんなで災害時に活動する際に、活用するものです。災害時は、周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- (2) このおたすけガイドは、災害時の活動をより効果的にするために、地域で検討して作成しましたが、記載している内容は完全ではありません。
- (3) 防コミで繰り返し訓練を実施し、地域おたすけガイドの内容を検証して、地域に適したガイドにするために、今後見直していきます。



春日野地区防災福祉コミュニティ地域おたすけガイド

防コミ運営本部設置基準

- ・震度5弱以上若しくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- ・特別警報が出された場合。
- ・上記のほか、大雨等で神戸市に避難準備・高齢者等避難開始、土砂災害警戒情報が発表された場合。

活動方針

阪神・淡路の教訓で、近隣の方々に助けあうことはとても重要です。しかしながら、**周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分達の出来る範囲で防災活動を行いましょう!!**

防コミ運営本部設置場所	地域福祉センター
ブロック本部設置場所	南ブロック：地域福祉センター 北ブロック：春日野小学校（地震時）、葺合中学校（大雨時）
防災資機材庫の場所	地域福祉センター、筒井公園、春日野公園 ※ 各資機材庫の中身については、p14～16の一覧を参照。
避難所	地震時：春日野小学校、（筒井公園）、（コミスタこうべ） 大雨時：コミスタこうべ
耐震性防火水槽	市営筒井住宅、春日野公園 他7箇所（地図参照）
災害時要援護者名簿保管場所	
防災行政無線保有者	地域福祉センター、防コミ代表者
地域内の危険箇所	地震時：東雲通2丁目（狭い道路） 大雨時：春日野商店街、2号線南北の地下通路 ビル風：市営筒井住宅の東西にある道路

※ 場所の詳細については、p13の地図を参照。

災害初動対応

■ 地震

□は、その行動が完了したら✓をつける。

【災害発生直後】

個人の行動

1 地震発生直後の安全の確保

- 火を使用している場合は、可能な限り火を止める。
- 地震の揺れを感じたら、まず、丈夫なテーブルの下に隠れるなど、身の安全を確保する。
- 家族の安全を確認する。
- 火災が発生すれば消火器等で初期消火を行う。
- ラジオなどで情報を確認する。

防災福祉コミュニティとしての活動

1 防コミ運営本部による指揮

- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報収集班、安否確認班等の班編成を行う。
- 防災活動が可能な市民を防災本部に召集し、情報収集班、安否確認班など必要となる班に配置する。
- 本部に地域の地図、防災マップを配置する。

また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。

【ホワイトボード等での情報整理の例】

時間	報告者	場所	状況	対策
10:05	A	〇〇方	連絡が取れない	安否確認が必要

- 各ブロックへ情報収集班と安否確認班を派遣し、地区内の被害状況、安否の状況を整理する。
*地震時は有線電話、携帯電話は使用できないと考えた方がよいです。
- 被害の状況に応じて、活動内容の具体的指示（被災者の救出・救護、消火活動等）を出す。

集まった市民による班行動

■ 情報収集・伝達 → p8 参照

- 現地の確認等により、各地区内の被害状況を調査し、本部へ報告を行う。

■ 安否確認 → p9 参照

- 民生・児童委員等と協力し住民の安否確認を行う。
* ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる区別も効果的です。

■ 消火活動 → p10 参照

- 各班で耐震性防火水槽の小型動力ポンプやあらゆる消火器具等を活用し初期消火を行う。
- 出火場所を確認する。
- 消火活動人員の割り振りをする。
* 火災の規模によっては消火器やバケツリレーでの消火も重要です。



■ 救出・救護 → p11 参照

- 二次災害に注意しながら、各班で防災資機材を使用し、被災者を救出する。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

2 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

3 避難所の立ち上げ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所を立ち上げる。
- 避難者名簿を作成する。

■ 主な緊急時連絡先

消防 … TEL : 119、FAX : 392-1119

警察 … TEL : 110、FAX : 382-1110

区役所 … TEL : 232-4411

FAX : 222-6825

災害センター (避難情報、避難所開設情報)

… TEL : 0570-078-500

春日野小学校 … TEL : 231-2461

蕨合中学校 … TEL : 241-0444

コムスタこうべ … TEL : 251-4731

災害初動対応

■ 風水害

□は、その行動が完了したら✓をつける。

【災害発生前】

1 防コミ運営本部の立ち上げ

- 避難準備・高齢者等避難開始や避難勧告などが発令されたら防コミ運営本部立ち上げに向けて、招集の連絡を行う。

(緊急時の連絡の流れについては、p6を参照)

■ 避難勧告の種類

避難準備・ 高齢者等避難開始	災害発生の可能性がありますので、避難できるように準備してください。 避難に時間がかかる方は早めに避難しましょう。
避難勧告	災害発生の可能性が高まっています。避難を開始してください。
避難指示（緊急）	いまにも災害が発生する可能性があります。すぐに避難してください。 ※大雨などで避難所への避難が危険なときは、崖から離れた2階以上の部屋に避難しましょう。

- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報収集班、安否確認班等の班長を決定する。
- 本部に地域の地図、防災マップなどを配置する。
また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。

【ホワイトボード等での情報整理の例】

時間	報告者	場所	状況	対策
10:05	A	〇〇方	連絡が取れない	安否確認が必要

2 情報収集・伝達 → p8 参照

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 収集した情報は、有線電話、携帯電話等により、班員に伝達する。

3 資機材等の確保

- 災害発生時に備えて、防災資機材の確保や非常食等の確保をする。

【災害発生直後】

1 防コミ運営本部による指揮

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 防災活動が可能な市民を防災本部に召集し、情報収集班、安否確認班など必要となる班を編成する。
- 各ブロックへ情報収集班と安否確認班を派遣し、地区内の被害状況、安否の状況を整理する。
- 被害の状況に応じて、活動内容の具体的指示（被災者の救出・救護、要援護者の避難支援等）を出す。

集まった市民による班行動

■ 情報収集・伝達 → p8 参照

- 有線電話、携帯電話、現地の確認等により、各地区内の被害状況を調査し、本部へ報告を行う。

■ 安否確認 → p9 参照

- 民生・児童委員等と協力し住民の安否確認を行う。
* ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる区別も効果的です。

■ 救出・救護 → p11 参照

- 二次災害に注意しながら、各班で防災資機材を使用し、被災者を救出する。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

2 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

■ 主な緊急時連絡先

消防 …TEL : 119、FAX : 392-1119

警察 …TEL : 110、FAX : 382-1110

区役所 …TEL : 232-4411

FAX : 222-6825

災害テレホンセンター（避難情報、避難所開設情報）

…TEL : 0570-078-500

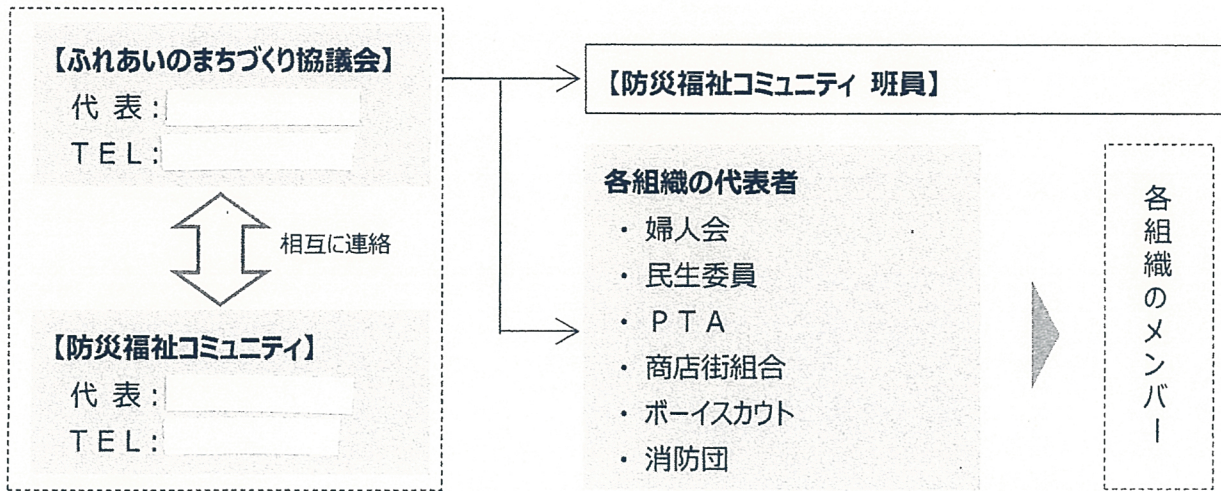
春日野小学校 …TEL : 231-2461

コミスタこうべ …TEL : 251-4731

3 避難所の立ち上げ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所を立ち上げる。
- 避難者名簿を作成する。

【緊急時の連絡の流れ】



【災害緊急連絡網】

氏名	連絡先	所属団体／役職
		春日野ふれまち協議会／会長
		春日野ふれまち協議会／防災部会長
		春日野福祉センター／管理員
		春日野福祉センター／管理員
		筒井地区 民児協
		春日野 婦人会
		筒井地区民生委員／地区長
		宮本地区民生委員
		宮本地区民生委員
		春日野 PTA／会長
		宮本地区民生委員
		春日野婦人会／副会長
		春日野婦人会／会計
		春日野婦人会／副会長
		春日野婦人会／
		春日野婦人会／監事
		主任 児童委員
		春日野婦人会
		春日野婦人会
		春日野婦人会

初動対応後（避難所の運営）

■ 共通事項

□は、その行動が完了したら✓をつける。

【数時間後～3日（72時間）ぐらいまで】

1 役割分担の見直し

- 防災福祉コミュニティの役員の集結状況や災害の状況に応じて役割を、見直す。

2 避難所の運営

- 学校関係者、区役所職員や災害ボランティアと協力して避難所の運営にあたる。
- 女性や子育て家庭への配慮
- 同行避難してきたペットへの配慮
- 災害時要援護者への配慮

要援護者ご本人やご家族の意向を踏まえ、避難所内に一般の方と区分けした要援護者のための福祉避難室を設けるなどの対応：保健室の利用など

※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な方、透析患者やオストメイト（人工肛門など）などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを、他の避難者に理解していただくことが大切。

- 福祉避難所を必要とする方について、避難所を巡回する市の保健師へつなぐ。

3 生活情報の収集

- 生活情報の収集及び住民への周知

4 防火・防犯パトロール

- パトロール班を結成し、交代で地域内のパトロールを行う。

情報収集・伝達

- 1 ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 2 地域内の災害情報を把握する。

情報収集・伝達手順

1 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

(1) ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

(2) 行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に出向くなどして、公開されている情報を収集する。

(3) 各ブロックからの情報収集

情報収集班を各ブロックに派遣し、現状確認により情報を収集する。

2 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。

安否確認

1 安否確認情報の収集

2 安否不明者の確認

事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し安否確認を行う

訪問先での確認手順

1 外観の確認

建物に甚大な被害がないかを確認してください。

2 声かけ・呼びかけ確認

門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。

3 ドアをノックする

応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックしてみてください。

4 庭、勝手口等の確認

状況が把握できないときは、庭、勝手口などの確認をしてください。

5 確認シール貼付

確認した状況に応じて、玄関ドアにシールを貼付してください。

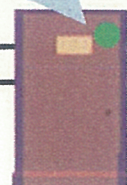
必ず右上部付近に貼付

【シールの色分け】

● 救助・支援の必要あり

● 安否の確認できず

● 確認済み・支援の必要なし



消 火 活 動

- 1 ブロック、自治会単位で耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を活用し、初期消火を行う。
- 2 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

消火活動手順

1 消火用水の選定

- (1) 火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど風向きに注意する。
- (2) 河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かび上がらないようにする。
- (3) ポンプから水面までの高低差はC級で7m以内、D級で4m以内を目安とする。

2 ホースの延長要領

- (1) 道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- (2) ホースの結合は漏水しないように確実にを行う。

3 送水の時期

- (1) ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
- (2) 放口コックを開けるときは筒先の反動力を考え徐々に行う。

救出・救護活動

- 1 ブロック、自治会単位で防災資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
- 2 救護（応急手当）を実施する。

救出・救護手順

1 被害の実態把握

- (1) 倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- (2) 建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- (3) 二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

2 二次災害の防止

- (1) 木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- (2) 柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- (3) 火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

3 要救助者の救出

要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。

要救助者を無理に引き出そうとしない。

4 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

災害時要援護者の避難支援

自宅の損傷の状況等により、避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う。

避難支援のポイント

1 一人暮らし高齢者

迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。

2 寝たきりの要介護高齢者

避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。

3 認知症の人

安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。

4 視覚障がい者

音声による情報伝達や状況説明が必要。避難誘導等の援助が必要。

5 聴覚障がい者

補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。

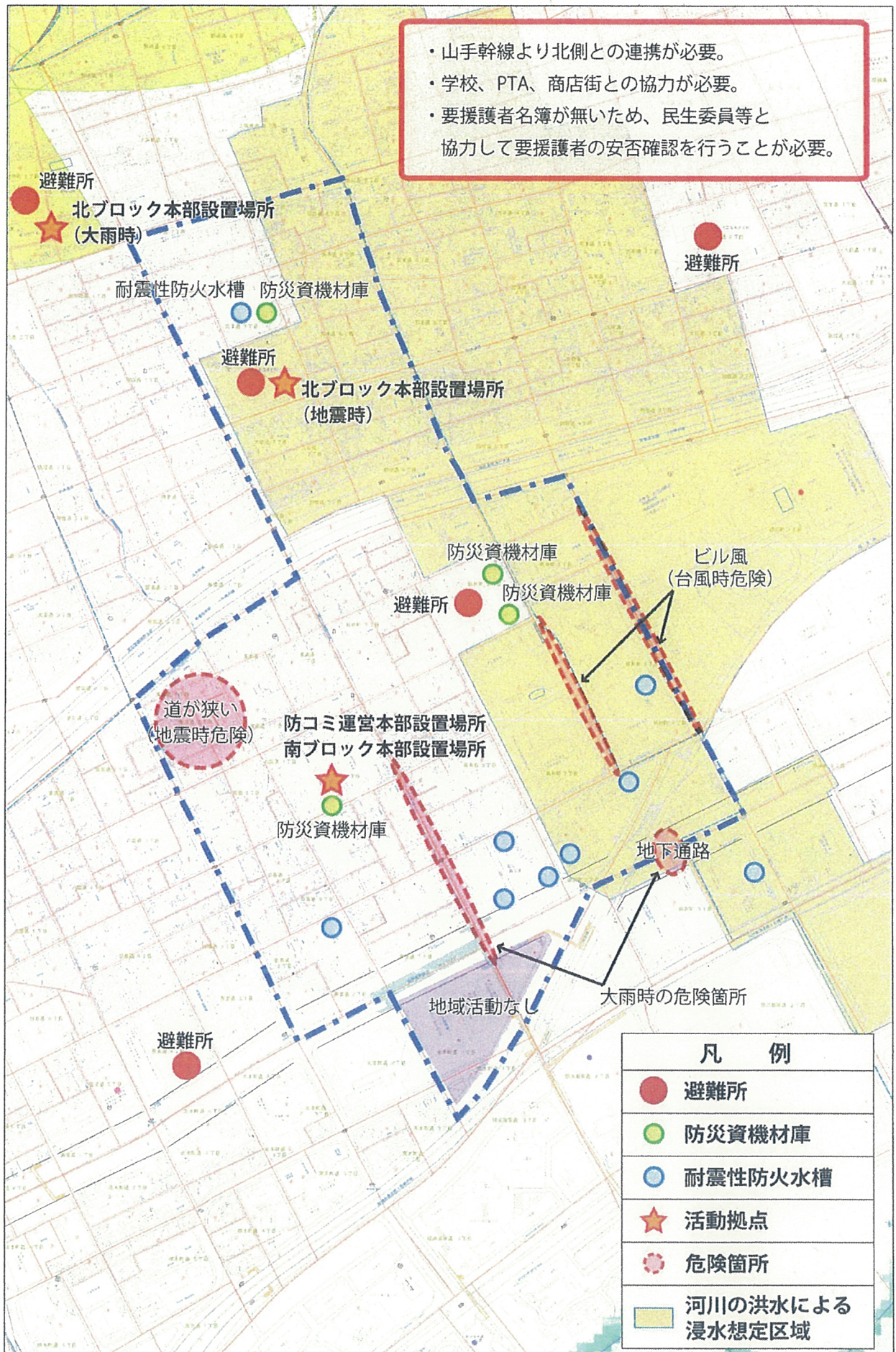
6 言語障がい者

手話、筆談等によって状況を把握することが必要。

7 在宅人工呼吸器使用者

避難所での電源確保が必要。

- ・山手幹線より北側との連携が必要。
- ・学校、PTA、商店街との協力が必要。
- ・要援護者名簿が無い場合、民生委員等と協力して要援護者の安否確認を行うことが必要。



凡 例	
●	避難所
●	防災資機材庫
●	耐震性防火水槽
★	活動拠点
- - -	危険箇所
■	河川の洪水による 浸水想定区域

■ 防災資機材庫の資機材一覧（地域福祉センター）

用途	品名	1セット数	1セット点数	点数	選択数量	備考
消火用	動力消防ポンプ（D1級）	一式	28点	-	-	
	消防用ホース	5本	10点	6点	2本	
	訓練用消火器（消火器10本で一式）	一式	12点	-	-	
	布バケツ	11個	1点	2点	22個	
	消火用ボックス	一式	26点	-	-	
	自立式簡易水槽	1個	7点	-	-	
救助用	スコップ	9本	1点	4/9点	4本	
	バール	6本	1点	2/3点	4本	
	折りたたみ鋸	8本	1点	-	-	
	鋸	6本	1点	1/2点	3本	
	オノ	1本	1点	1点	1本	
	ハンマー	3本	1点	2/3点	2本	
	簡易ジャッキ	2機	1点	-	-	
	ツルハシ	2本	1点	1点	1本	
	ボルトクリッパー	1本	1点	1点	1本	
	折りたたみ担架	1台	1点	1点	1台	
	コンクリート壁・クラッシャーセット（油圧式）	一式	40点	-	-	
	携帯用コンクリート破砕器具	一式	20点	-	-	
	とび口	2本	1点	1/2点	1本	
	救助用ロープ	1巻	4点	4点	1巻	
	救助用安全帯	一式	12点	-	-	
	サイバースリング	一式	2点	-	-	
その他	ヘルメット	3個	1点	13/3点	13個	
	手袋	9双	1点	2点	18双	
	腕章	6枚	1点	-	-	
	携帯用電灯	3機	1点	-	-	
	ソーラー充電式懐中電灯	1個	1点	-	-	
	トランジスタメガホン	1機	1点	-	-	
	広報・訓練用拡声器	1機	6点	-	-	
	収納庫（大）	1機	17点	-	-	
	収納庫（中）	1機	12点	-	-	
	収納庫（小）	1機	9点	-	-	
	収納庫（箱型）	1機	5点	-	-	
	サルベージシート	4枚	1点	-	-	
	携帯用発電機	1機	7点	-	-	
	トランシーバー	1台	3点	-	-	
	携帯用ファクシミリ	1台	6点	-	-	
	二連梯子	1台	6点	-	-	
	台車	1台	2点	2点	1台	
	一輪車	2台	1点	1/2点	1台	
はしご兼用脚立	1台	3点	3点	1台		

■ 防災資機材庫の資機材一覧（筒井公園）

用途	品名	1セット 数	1セット 点数	点数	選択 数量	備考
消火用	動力消防ポンプ（D1級）	一式	28点			
	消防用ホース	5本	10点			
	訓練用消火器（消火器10本で一式）	一式	12点			
	布バケツ	11個	1点			
	消火用ボックス	一式	26点			
	自立式簡易水槽	1個	7点			
救助用	スコップ	9本	1点			
	バール	6本	1点			
	折りたたみ鋸	8本	1点			
	鋸	6本	1点			
	オノ	1本	1点			
	ハンマー	3本	1点			
	簡易ジャッキ	2機	1点			
	ツルハシ	2本	1点			
	ボルトクリッパー	1本	1点			
	折りたたみ担架	1台	1点			
	コンクリート壁・クラッシャーセット（油圧式）	一式	40点			
	携帯用コンクリート破碎器具	一式	20点			
	とび口	2本	1点			
	救助用ロープ	1巻	4点			
	救助用安全帯	一式	12点			
	サイバースリング	一式	2点			
その他	ヘルメット	3個	1点			
	手袋	9双	1点			
	腕章	6枚	1点			
	携帯用電灯	3機	1点			
	ソーラー充電式懐中電灯	1個	1点			
	トランジスタメガホン	1機	1点			
	広報・訓練用拡声器	1機	6点			
	収納庫（大）	1機	17点			
	収納庫（中）	1機	12点			
	収納庫（小）	1機	9点			
	収納庫（箱型）	1機	5点			
	サルベージシート	4枚	1点			
	携帯用発電機	1機	7点			
	トランシーバー	1台	3点			
	携帯用ファクシミリ	1台	6点			
	二連梯子	1台	6点			
	台車	1台	2点			
	一輪車	2台	1点			
	はしご兼用脚立	1台	3点			

■ 防災資機材庫の資機材一覧（春日野公園）

用途	品名	1セット 数	1セット 点数	点数	選択 数量	備考
消火用	動力消防ポンプ（D1級）	一式	28点			
	消防用ホース	5本	10点			
	訓練用消火器（消火器10本で一式）	一式	12点			
	布バケツ	11個	1点			
	消火用ボックス	一式	26点			
	自立式簡易水槽	1個	7点			
救助用	スコップ	9本	1点			
	バール	6本	1点			
	折りたたみ鋸	8本	1点			
	鋸	6本	1点			
	オノ	1本	1点			
	ハンマー	3本	1点			
	簡易ジャッキ	2機	1点			
	ツルハシ	2本	1点			
	ボルトクリッパー	1本	1点			
	折りたたみ担架	1台	1点			
	コンクリート壁・クラッシャーセット（油圧式）	一式	40点			
	携帯用コンクリート破碎器具	一式	20点			
	とび口	2本	1点			
	救助用ロープ	1巻	4点			
	救助用安全帯	一式	12点			
	サイバースリング	一式	2点			
その他	ヘルメット	3個	1点			
	手袋	9双	1点			
	腕章	6枚	1点			
	携帯用電灯	3機	1点			
	ソーラー充電式懐中電灯	1個	1点			
	トランジスタメガホン	1機	1点			
	広報・訓練用拡声器	1機	6点			
	収納庫（大）	1機	17点			
	収納庫（中）	1機	12点			
	収納庫（小）	1機	9点			
	収納庫（箱型）	1機	5点			
	サルベージシート	4枚	1点			
	携帯用発電機	1機	7点			
	トランシーバー	1台	3点			
	携帯用ファクシミリ	1台	6点			
	二連梯子	1台	6点			
	台車	1台	2点			
	一輪車	2台	1点			
	はしご兼用脚立	1台	3点			